



## 主張するセルフ・アドボケートたち

No.22

アドボケート (advocate) とは、障害者の権利擁護のための支援・擁護・代弁する人の意味。この企画では、当事者が自ら、自分の言葉で、今の生活についての思いを発信します。

## 第13回東京大集会での発表 テーマ「安心して堂々と生きる」

## 「僕の楽しみ」 日本ダウン症協会 東京練馬支部 田中 良 (34歳・東京都)

「皆さんこんにちは僕は田中良といいます。33歳(当時)です。僕はモスバーガー練馬駅店で働いています13年になります。今日はゆうきゅうを使ってきました。仕事はカスタマー、バッシング、トレイふき、ゴミチェンジ、掃き掃除、段ボールをつぶすなどです。かわいい赤ちゃんのお客様が来てくれるのでうれしいです。土曜日はラブジャンクスのダンスに行きます。思いっきり踊って、その後友達とランチをするのが楽しいです。

時々彼女も一緒です。ラブジャンプでは、アドバンス、マスターコース、劇団でお芝居もやります、そして日曜日の朝はゆっくり起きます。部屋の掃除、お風呂の掃除、靴洗いをした後は、のんびり音楽を聴いたり、テレビを見たりします。そして、『また、明日から仕事がんばるぞ』と思います。できたら彼女と結婚したいなーと思っています。ありがとうございました。」



「兄として思うこと。」 田中 友幸  
親切丁寧に仕事をして、華麗そして仲良くダンスを踊り、最新のスマホを使う。たまに LINE のレスは来なかったりもするけど、いつも生き活きしている弟からは、会うたびに素敵なパワーをもらっています。物理的な距離は少し離れて暮らしているものの、いつも気にかけてつも過保護になりすぎないよう、逢ったときに想いを共にする。そんな仲の良い兄弟、そしてその絆をこれからも一層成長と進化させていきたい、と想う次第です。

2018年 7月12日(木)、開催された第13回東京大集会にて、日本ダウン症協会の代表として田中良さんが発表しました。テーマは「安心して堂々と生きる」。発表のタイトルは「僕の楽しみ」、日々のことを1000人の前で堂々と発表しました。「相模原の事件が忘れられないように、今を生活している私たちの暮らしに必要な住む場所は13年たっても変わらない問題で、みんなで考え続けなくてはいけない」という本人発表は、参加者に訴える力がとても大きいものでした。日本先天異常学術集会(7月29日開催)に設けていただいた発表の場でも田中さんの活躍は、ダウン症のことを知らない医師の方々に新鮮に映り、生きる力のすばらしさを伝えることができました。 【理事：清野 弘子】



右から大橋博文先生、田中良さん、沼部博直先生、吉橋博史先生。

※これまで会報に掲載してきたこのコーナーの記事を JDS のホームページですべてご覧いただけます。トップページ上段「ダウン症のあるお子さんを授かったご家族へ」⇒「主張するセルフ・アドボケートたち」